

表 6.1.3-17(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G 進入路)

GS進入路 マント群落・ソデ群落形成地	GSM-1		GSM-2		GSM-3		GSM-4		GSM-5		GSM-6		出現回数
	R2年度		R2年度		R2年度		R2年度		R2年度		R2年度		
	春季	夏季	春季	夏季	春季	夏季	春季	夏季	春季	夏季	春季	夏季	
傾斜の向き	-	-	-	-	-	-	W	W	-	-	-	-	
傾斜 (°)	-	-	-	-	-	-	45	45	-	-	-	-	
面積 (m ²)	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	
亜高木層(T2)の高さ (m)	8.0	8.0	-	-	6.0	6.0	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	10	10	-	-	20	20	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現種 (種)	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.0	2.0	4.0	4.0	2.0	2.0	2.0	2.0	4.5	4.5	
低木層(S)の植被率 (%)	10	10	5	5	40	40	10	15	25	30	20	25	
低木層(S)の出現種 (種)	3	3	3	4	10	10	1	2	3	3	3	5	
草本層(H)の高さ (m)	1.2	1.2	1.0	1.2	1.0	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.3	
草本層(H)の植被率 (%)	30	30	25	25	40	50	40	55	30	40	50	55	
草本層(H)の出現種 (種)	16	19	13	13	30	25	25	27	31	30	14	15	
出現種数 (種)	18	21	15	15	32	28	25	27	32	31	16	18	
草本層(H)													
H.9 シマミサオノキ	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+		9
H.10 ササクサ	+	+	+	+	1・2	1・2			+	+			8
H.11 ヒメユズリハ	+	+	+		+	+			+	+			7
H.12 タブノキ	+	+			+	+			+	+			6
H.13 リュウキュウチク			+	+			+	+	+・2	1・2			6
H.14 ホウキギク					+	+	+・2	+・2			+	+	6
H.15 イヌマキ					+	+	+	+	+	+			6
H.16 タチスズメノヒエ					+	+	+	+			1・2	1・2	6
H.17 クチナシ					+	+	+	+			+	+	6
H.18 エダウチホングウシダ	+				+	+			+	+			5
H.19 シバヤブニッケイ		+			1・2	1・2			+	+			5
H.20 オキナワサルトリイバラ					+		+	+			+	+	5
H.21 リュウキュウチク (移植株)	3・3	3・3							1・2	1・2			4
H.22 リュウキュウモチ			+	+			+	+					4
H.23 オニタビラコ				+	+		+		+				4
H.24 タイミンタチバナ					+・2	+・2			+	+			4
H.25 ヤブツバキ					+	+			+	+			4
H.26 ギョウギシバ							2・2	2・2			+	+	4
H.27 カクレミノ							+	+	+	+			4
H.28 コシダ									1・2	2・2	2・3	2・3	4
H.29 エゴノキ	+	+										+	3
H.30 ソテツ	+						+	+					3
H.31 シロミズ		+			+	+							3
H.32 ススキ		+							+	+			3
H.33 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)			+						+	+			3
H.34 モッコク					+		+	+					3
H.35 ヤマグワ					+				+	+			3
H.36 トベラ						+			+	+			3
H.37 ヒメジョオン							+	+			+		3
H.38 ホシダ								+			+	+	3
H.39 リュウキュウマツ									+	+		+	3
H.40 シロダモ			+	+									2
H.41 ヤマモモ					+	+							2
H.42 ムッチャガラ					+	+							2
H.43 コバンモチ					+	+							2

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度→5: カベツト状に分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-17(3) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(G 進入路)

GS進入路 マント群落・ソデ群落形成地	GSM-1		GSM-2		GSM-3		GSM-4		GSM-5		GSM-6		出現回数
	R2年度		R2年度		R2年度		R2年度		R2年度		R2年度		
	春季	夏季	春季	夏季	春季	夏季	春季	夏季	春季	夏季	春季	夏季	
傾斜の向き	-	-	-	-	-	-	W	W	-	-	-	-	
傾斜 (°)	-	-	-	-	-	-	45	45	-	-	-	-	
面積 (m ²)	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	2×4	
亜高木層(T2)の高さ (m)	8.0	8.0	-	-	6.0	6.0	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	10	10	-	-	20	20	-	-	-	-	-	-	
亜高木層(T2)の出現種 (種)	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.0	2.0	4.0	4.0	2.0	2.0	2.0	2.0	4.5	4.5	
低木層(S)の植被率 (%)	10	10	5	5	40	40	10	15	25	30	20	25	
低木層(S)の出現種 (種)	3	3	3	4	10	10	1	2	3	3	3	5	
草本層(H)の高さ (m)	1.2	1.2	1.0	1.2	1.0	1.3	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.3	
草本層(H)の植被率 (%)	30	30	25	25	40	50	40	55	30	40	50	55	
草本層(H)の出現種 (種)	16	19	13	13	30	25	25	27	31	30	14	15	
出現種数 (種)	18	21	15	15	32	28	25	27	32	31	16	18	
草本層(H)													
H.44 ウスベニガナ					+			+					2
H.45 コバナヒメハギ								+	2・2				2
H.46 イジュ								+	+				2
H.47 コマツヨイグサ								+	+				2
H.48 インドシャリンバイ										+	+		2
H.49 アカメガシワ										+	+		2
H.50 モチノキ										+	+		2
H.51 アデク										+	+		2
H.52 ササバサシキライ										+	+		2
H.53 コミカンソウ		+											1
H.54 シシアクテ		+											1
H.55 アメリカフウロ					+								1
H.56 クロミノオキナワズメウリ					+								1
H.57 オオアブラガヤ						+							1
H.58 オオバギ							+						1
H.59 ハルノゲシ(ノゲシ)								+					1
H.60 カタバミ									+				1
H.61 イスノキ										+			1
H.62 マンリョウ											+		1
H.63 ベニバナボロギク												+	1
H.64 ハゼノキ													+

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
群度→5: カベツト状に分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

c) H地区

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.1.3-18 に、調査地の状況を図 6.1.3-21 に示した。

東側は亜高木層、低木層、草本層の3階層に、北側、南側及び西側は低木層、草本層の2階層にそれぞれ分化していた。

出現種数 26~35 種の生育を確認した。

亜高木層は、高さ 7.0m、植被率 25%、出現種は 3 種であった。

低木層は、高さ 3.5~5.0m、植被率 20~50%、出現種は 4~12 種であった。

草本層は、高さ 1.0~1.2m、植被率 15~65%、出現種は 24~33 種であった。

H 地区については、低木層及び草本層の植被率が増加し、マント群落・ソデ群落が概ね形成されていた。

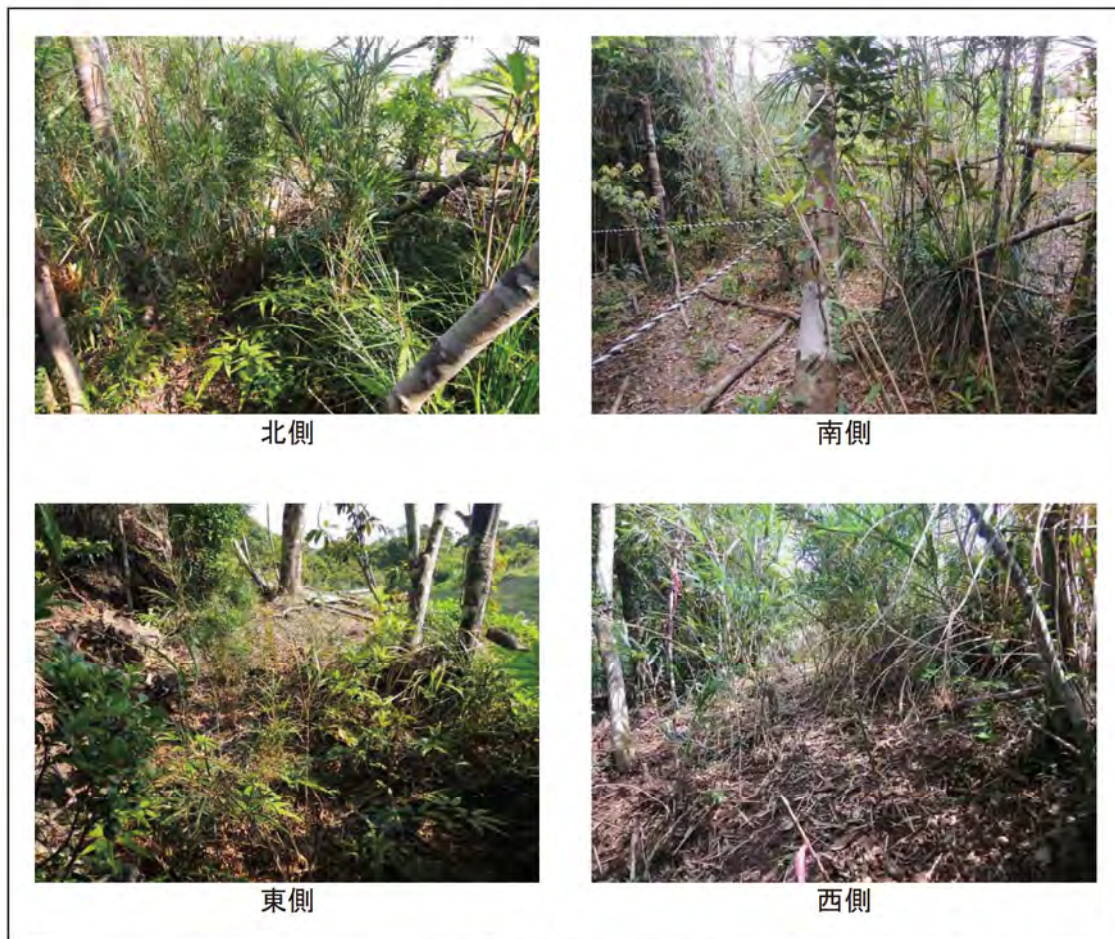


図 6.1.3-21 マント群落・ソデ群落の調査地状況(H地区) 令和2年度春季

表 6.1.3-18(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(H地区)

H地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側	南側	東側	西側	-
	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度	
	春季	春季	春季	春季	
傾斜の向き	E	-	-	W	
傾斜角度 (°)	5	-	-	5	
調査区面積 (m ²)	6	6	6	6	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	7.0	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	25	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	3	-	
低木層(S)の高さ (m)	5.0	4.5	3.5	4.0	
低木層(S)の植被率 (%)	50	35	20	40	
低木層(S)の出現数 (種)	8	12	5	4	
草本層(H)の高さ (m)	1.0	1.0	1.0	1.2	
草本層(H)の植被率 (%)	65	40	35	15	
草本層(H)の出現数 (種)	24	33	26	29	
出現種数 (種)	26	35	28	29	出現回数
亜高木層(T2)					
T2.1 モッコク			1・1		1
T2.2 アデク			1・1		1
T2.3 タイミンタチバナ			1・1		1
低木層(S)					
S.1 リュウキュウチク (移植)	2・2	1・2	+・2	1・2	4
S.2 リュウキュウチク	2・2	1・2		2・2	3
S.3 イスノキ	1・1	1・2		1・1	3
S.4 タイミンタチバナ	+	+	1・1		3
S.5 ハナガサノキ	+		+	+	3
S.6 イジュ	1・1	+			2
S.7 シバヤブニッケイ	+	+			2
S.8 カクレミノ	+	+			2
S.9 コバンモチ		1・1	1・1		2
S.10 オキナワサルトリイバラ	+				1
S.11 ミミズバイ		1・1			1
S.12 シマミサオノキ		1・1			1
S.13 イヌガシ		+			1
S.14 リュウキュウモチ		+			1
S.15 アデク		+			1
S.16 シラタマカズラ			+		1
S.17 ヤマヒハツ				1・1	1
草本層(H)					
H.1 クロガヤ	2・2	2・2	+・2	+	4
H.2 ササクサ	2・2	1・2	+・2	+	4
H.3 ハナガサノキ	+・2	+	+	+	4
H.4 アデク	+	+	+	1・1	4
H.5 アカメガシワ	+	+	+	+・2	4
H.6 ヤマヒハツ	+	+	+	+	4
H.7 リュウキュウモチ	+	+	+	+	4
H.8 タイミンタチバナ	+	+	+	+	4
H.9 シラタマカズラ	+	+	+	+	4
H.10 オキナワサルトリイバラ	+	+	+	+	4
H.11 ササバサンキライ	+	+	+	+	4
H.12 イスノキ	+・2	1・1		+	3
H.13 シンエダウチホングウシダ	+	+・2		+・2	3
H.14 シバヤブニッケイ	+	+		+	3
H.15 リュウキュウチク	+	+		+	3

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度→5: カベツ状に分布、4: カベツに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-18(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(H地区)

H地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側	南側	東側	西側	-
	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度	
	春季	春季	春季	春季	
傾斜の向き	E	-	-	W	
傾斜角度 (°)	5	-	-	5	
調査区面積 (m ²)	6	6	6	6	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	-	7.0	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	-	25	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	-	3	-	
低木層(S)の高さ (m)	5.0	4.5	3.5	4.0	
低木層(S)の植被率 (%)	50	35	20	40	
低木層(S)の出現数 (種)	8	12	5	4	
草本層(H)の高さ (m)	1.0	1.0	1.0	1.2	
草本層(H)の植被率 (%)	65	40	35	15	
草本層(H)の出現数 (種)	24	33	26	29	
出現種数 (種)	26	35	28	29	出現回数
草本層(H)					
H. 16 ヒメズリハ	+		+	+	3
H. 17 シロノセンダングサ		+	1・2	++2	3
H. 18 マンリョウ		+	+	+	3
H. 19 シロミズ		+	+	+	3
H. 20 コシダ	1・2		2・2		2
H. 21 スダジイ(イタジイ)	++2	++2			2
H. 22 タブノキ	+	+			2
H. 23 ギョクシンカ	+	+			2
H. 24 モクレイシ	+		+		2
H. 25 コバナヒメハギ	+			+	2
H. 26 トベラ		+	+		2
H. 27 インドシャリンバイ		+	+		2
H. 28 ツゲモチ		+	+		2
H. 29 コバンモチ		+		+	2
H. 30 ヒサカキ		+		+	2
H. 31 イジュ		+		+	2
H. 32 カクレミノ		+		+	2
H. 33 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)			+	+	2
H. 34 トキワカモメヅル	+				1
H. 35 ヘクソカズラ	+				1
H. 36 ウラジロカンコノキ		+			1
H. 37 ホルトノキ		+			1
H. 38 サザンカ		+			1
H. 39 シシアクチ		+			1
H. 40 シマミサオノキ		+			1
H. 41 チガヤ			1・2		1
H. 42 リュウキュウチク (再移)			1・2		1
H. 43 ハゼノキ			+		1
H. 44 ギイマ			+		1
H. 45 ススキ			+		1
H. 46 ソテツ				+	1
H. 47 カタバミ				+	1
H. 48 ヒョウタンカズラ				+	1
H. 49 オニタビラコ				+	1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下

群度→5: カベツ状に分布、4: カベツに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南側、東側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.1.3-19 に、調査地の状況を図 6.1.3-22 に示した。

北側が低木層、草本層の2階層に分化し、南側、東側及び西側が草本層の1階層であった。

出現種数は4~8種であった。

北側は、低木層が高さ1.2m、植被率10%、出現種1種、草本層が高さ0.5m、植被率85%、出現種7種であった。草本類のシロノセンダングサが優占していた。

南側は、草本層が高さ0.6m、植被率80%、出現種8種であった。草本類のチガヤが優占するほか、シロノセンダングサも高い被度を示した。

東側は、高さ0.7m、植被率100%、出現種6種であった。草本類のシバ、シロノセンダングサが優占していた。

西側は、高さ0.7m、植被率100%、出現種4種であった。草本類のシバが優占するほか、シロノセンダングサも高い被度を示した。

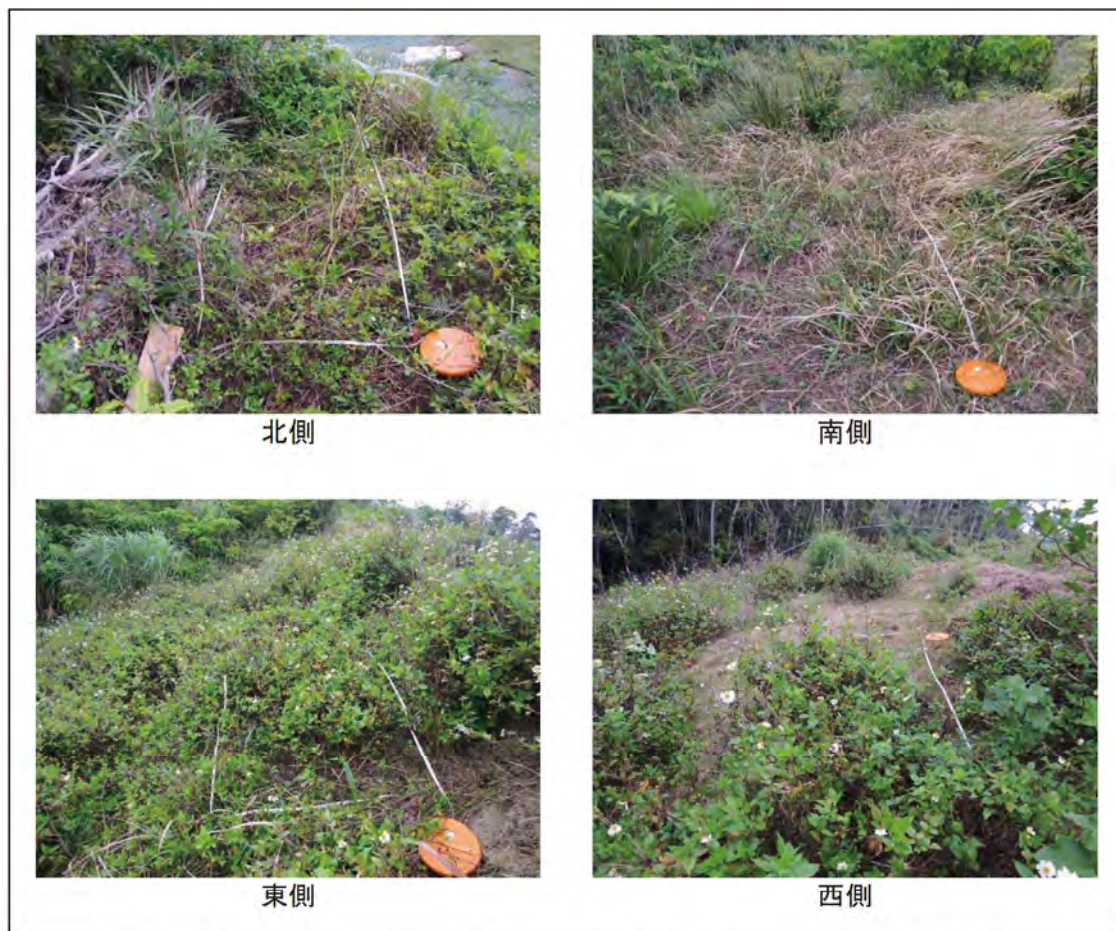


図 6.1.3-22 無障害物帯の調査地状況の推移(H地区) 令和2年度春季

表 6.1.3-19 無障害物帯形成地の植生調査結果 (H 地区)

H地区 無障害物帯	北側	南側	東側	西側	-
	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度	
	春季	春季	春季	春季	
傾斜の向き	NE	S	E	W	
傾斜角度 (°)	10	5	45	45	
調査区面積 (m ²)	1×2	1×2	1×2	1×2	
低木層(S)の高さ (m)	1.2	-	-	-	
低木層(S)の植被率 (%)	10	-	-	-	
低木層(S)の出現数 (種)	1	-	-	-	
草本層(H)の高さ (m)	0.5	0.6	0.7	0.7	
草本層(H)の植被率 (%)	85	80	100	100	
草本層(H)の出現数 (種)	7	8	6	4	出現 回数
出現種数 (種)	7	8	6	4	
低木層(S)					
H.1 リュウキュウチク	1・2				1
草本層(H)					
H.1 シロノセンダングサ	4・4	3・3	5・5	3・3	4
H.2 チガヤ	1・2	4・4	+		3
H.3 シバ		1・2	5・5	5・5	3
H.4 カタハミ			+	+	2
H.5 ダンドボロギク			+	+	2
H.6 ササクサ	+・2				1
H.7 ヒサカキ	+				1
H.8 ホウキギク	+				1
H.9 オニタビラコ	+				1
H.10 リュウキュウチク	+				1
H.11 ヤマグワ		1・1			1
H.12 オキナワサルトリイバラ		1・1			1
H.13 アカメガシワ		+			1
H.14 ギョウギシバ		+			1
H.15 キバナニワゼキショウ		+			1
H.16 ケニオイグサ			+		1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
群度→5: カベツト状に分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

d) N-1(a)地区

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.1.3-20 に、調査地の状況を図 6.1.3-23 に示した。

南側及び東側は亜高木層、低木層、草本層の3階層に、北側及び西側は低木層、草本層の2階層にそれぞれ分化していた。

出現種数 25～39 種の生育を確認した。

亜高木層は、高さ 5.0～6.0m、植被率 20～25%、出現種は 2～4 種であった。

低木層は、高さ 2.5m、植被率 40～60%、出現種は 2～4 種であった。

草本層は、高さ 0.8～1.0m、植被率 20～60%、出現種は 24～38 種であった。

なお、東側については、工事前からリュウキュウチクが生育しており、既存のマント群落・ソデ群落が形成されている。

N-1(a)地区については、低木層及び草本層の植被率が増加し、マント群落・ソデ群落が形成されていた。

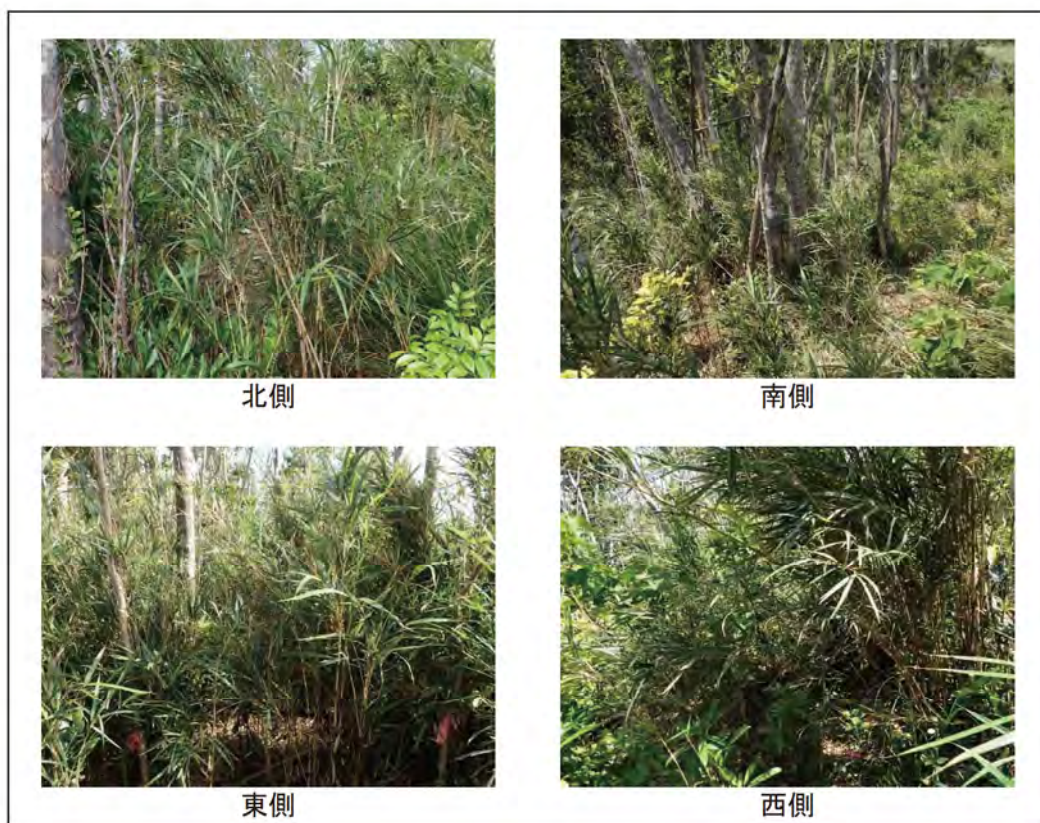


図 6.1.3-23 マント群落・ソデ群落の調査地状況(N-1(a)地区) 令和2年度春季

表 6.1.3-20(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a)地区)

N-1(a)地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側	南側	東側	西側	-
	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度	
	春季	春季	春季	春季	
傾斜の向き	W	W	-	W	
傾斜角度 (°)	40	5	-	5	
調査区面積 (m ²)	2×3	2×4	1.5×4	1×4	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	6.0	5.0	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	25	20	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	4	2	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	
低木層(S)の植被率 (%)	60	40	50	45	
低木層(S)の出現数 (種)	3	5	1	4	
草本層(H)の高さ (m)	0.8	1.0	1.0	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)	20	60	25	40	
草本層(H)の出現数 (種)	28	33	19	31	出現回数
出現種数 (種)	29	33	20	32	
亜高木層(T2)					
T2.1 スダジイ(イタジイ)		2・1			1
T2.2 ヒメズリハ		1・1			1
T2.3 イヌマキ		+			1
T2.4 イスノキ		+			1
T2.5 アデク			2・1		1
T2.6 ハナガサノキ			+		1
低木層(S)					
S.1 リュウキュウチク	1・2	1・2	3・4	++2	4
S.2 リュウキュウチク (移植)	3・4	3・3		2・3	3
S.3 シバヤブニッケイ	1・1				1
S.4 アデク	1・1				1
S.5 ムッチャガラ		1・1			1
S.6 イスノキ		+			1
S.7 タイミンタチバナ		+			1
S.8 シラタマカズラ		+			1
S.9 ヤマグワ				1・1	1
S.10 アカメガシワ				1・1	1
S.11 フカノキ				1・1	1
草本層(H)					
H.1 ササクサ	1・2	2・2	++2	+	4
H.2 ササバサンキライ	++2	+	+	++2	4
H.3 タイミンタチバナ	+	1・2	+	+	4
H.4 コバンモチ	+	1・1	1・2	+	4
H.5 シロノセンダングサ	+	++2	+	++2	4
H.6 イスノキ	+	+	++2	+	4
H.7 クロガヤ	+	1・2		+	3
H.8 シラタマカズラ	+	++2	++2		3
H.9 イヌマキ	+	+	+		3
H.10 インドシャリンバイ	+	+	+		3

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
群度→5: カベツト状に分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-20(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a)地区)

N-1(a)地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側	南側	東側	西側	-	
	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度		
	春季	春季	春季	春季		
傾斜の向き	W	W	-	W	出現回数	
傾斜角度 (°)	40	5	-	5		
調査区面積 (m ²)	2×3	2×4	1.5×4	1×4		
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	6.0	5.0	-		
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	25	20	-		
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	4	2	-		
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5		
低木層(S)の植被率 (%)	60	40	50	45		
低木層(S)の出現数 (種)	3	5	1	4		
草本層(H)の高さ (m)	0.8	1.0	1.0	1.0		
草本層(H)の植被率 (%)	20	60	25	40		
草本層(H)の出現数 (種)	28	33	19	31		
出現種数 (種)	29	33	20	32		
草本層(H)						
H. 11 ムツチャガラ	+	+	+			3
H. 12 アカメガシワ	+	+		1・2	3	
H. 13 シンエダウチホングウシダ	+	+		+	3	
H. 14 アデク	+	+		+	3	
H. 15 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)	+	+		+	3	
H. 16 ハナガサノキ		+・2	+	1・2	3	
H. 17 スダジイ(イタジイ)		+	+	+	3	
H. 18 シマミサオノキ		+	+	+	3	
H. 19 オキナワサルトリイバラ		+	+	+	3	
H. 20 コバナヒメハギ	+・2	+			2	
H. 21 イジュ	+	+・2			2	
H. 22 シバヤブニッケイ	+	+			2	
H. 23 ヒサカキ	+	+			2	
H. 24 ノボタン	+	+			2	
H. 25 ヤンバルミズバイ	+	+			2	
H. 26 オニクラマゴケ(ミドリカタヒバ)	+			+・2	2	
H. 27 ホランソブ	+			+	2	
H. 28 シシアクチ	+			+	2	
H. 29 リュウキュウチク (移植)		2・2		+	2	
H. 30 リュウキュウチク		+・2	1・2		2	
H. 31 カクレミノ		+	+・2		2	
H. 32 ヒメズリハ		+	+		2	
H. 33 ヒョウタンカズラ		+		+	2	
H. 34 オニタビラコ		+		+	2	
H. 35 ハゼノキ	+				1	
H. 36 ゴンズイ	+				1	
H. 37 エゴノキ	+				1	
H. 38 ススキ	+				1	
H. 39 テガヤ		1・2			1	
H. 40 シロミミズ		+			1	

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
群度→5: カベツ状に分布、4: カベツに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-20(3) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(a)地区)

N-1(a)地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側	南側	東側	西側	-
	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度	
	春季	春季	春季	春季	
傾斜の向き	W	W	-	W	
傾斜角度 (°)	40	5	-	5	
調査区面積 (m ²)	2×3	2×4	1.5×4	1×4	
亜高木層(T2)の高さ (m)	-	6.0	5.0	-	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	-	25	20	-	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	-	4	2	-	
低木層(S)の高さ (m)	2.5	2.5	2.5	2.5	
低木層(S)の植被率 (%)	60	40	50	45	
低木層(S)の出現数 (種)	3	5	1	4	
草本層(H)の高さ (m)	0.8	1.0	1.0	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)	20	60	25	40	
草本層(H)の出現数 (種)	28	33	19	31	出現回数
出現種数 (種)	29	33	20	32	
草本層(H)					
H. 41 ホウキギク		+			1
H. 42 マンリョウ			+		1
H. 43 ダンドボロギク			+		1
H. 44 ケホシダ				1・2	1
H. 45 ヒサカキサザンカ				1・2	1
H. 46 タブノキ				+・2	1
H. 47 トキワカモメヅル				+・2	1
H. 48 ナガバカニクサ(カニクサ)				+	1
H. 49 ヒカゲヘゴ				+	1
H. 50 モエジマシダ				+	1
H. 51 フカノキ				+	1
H. 52 オオアレチノギク				+	1
H. 53 タイワンハチジョウナ				+	1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度→5: カベツト状に分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、北側、南側、東側の3箇所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.1.3-21 に、調査地の状況を図 6.1.3-24 に示した。なお、西側については、既存道路となっていることから、調査を行っていない。

全3箇所において草本層の1階層であった。

出現種数は5~15種であった。

北側は、高さ0.6m、植被率100%、出現種5種で、草本類のチガヤが優占するほか、シロノセンダングサも高い被度を示した。

南側は、高さ1.0m、植被率95%、出現種15種で、草本類のチガヤが優占していた。

東側は、高さ0.2m、植被率95%、出現種6種で、草本類のシバが優占していた。

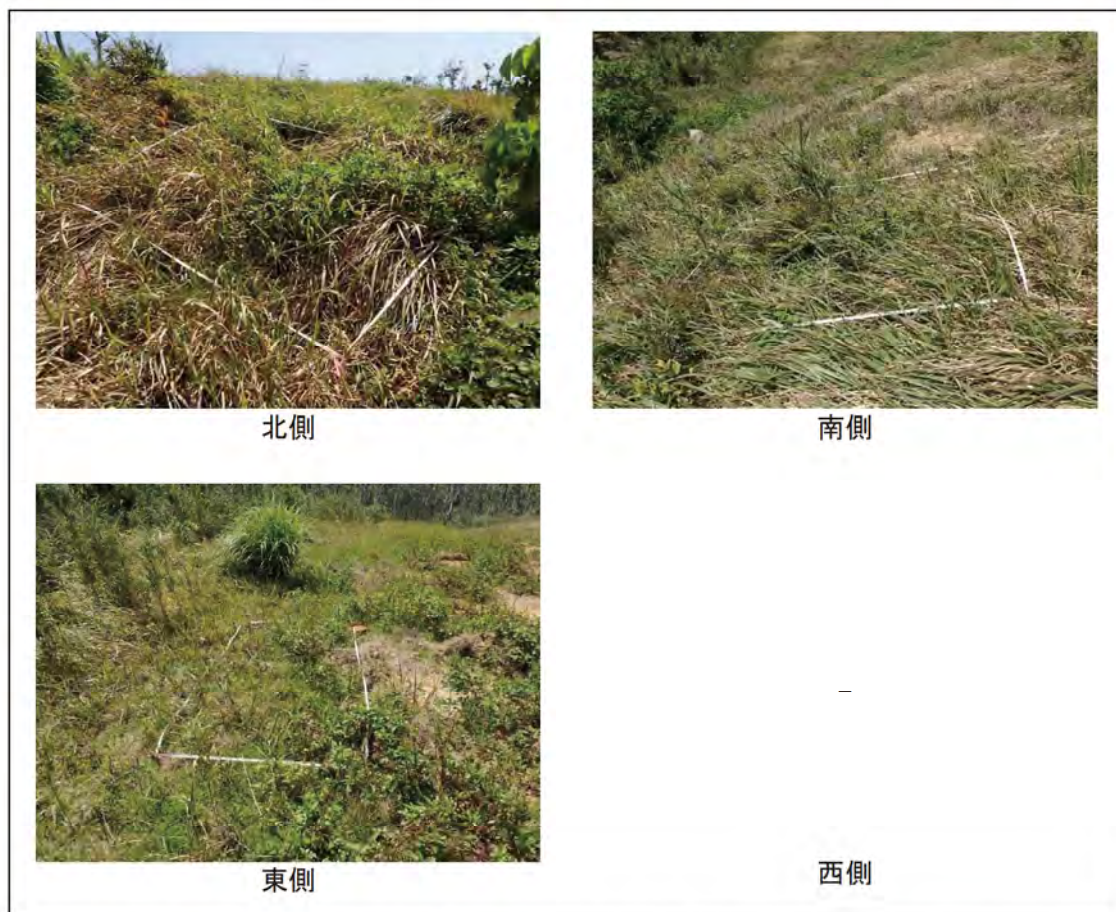


図 6.1.3-24 無障害物帯の調査地状況(N-1(a)地区) 令和2年度春季

表 6.1.3-21 無障害物帯形成地の植生調査結果 (N-1(a) 地区)

N-1(a)地区 無障害物帯	北側	南側	東側	-
	R2年度	R2年度	R2年度	
	春季	春季	春季	
傾斜の向き	W	SW	-	出現 回数
傾斜角度 (°)	30	10	-	
調査区面積 (m ²)	2×2	2×2	2×1	
草本層(H)の高さ (m)	0.6	1.0	0.2	
草本層(H)の植被率 (%)	100	95	95	
出現種数 (種)	5	15	6	
草本層(H)				
H.1 チガヤ	5・5	4・4	1・2	3
H.2 シロノセンダングサ	2・2	1・2	1・2	3
H.3 ホラシノブ	+	1・2		2
H.4 ホシダ	+	+		2
H.5 ヤマヒハツ	+	+		2
H.6 オキナワサルトリイバラ	+	+		2
H.7 シバ		1・2	5・5	2
H.8 キバナニワゼキショウ		+	++2	2
H.9 コバナヒメハギ		+	+	2
H.10 リュウキュウチク		+	+	2
H.11 ヒリュウシダ		++2		1
H.12 ヒカゲヘゴ		+		1
H.13 カタバミ		+		1
H.14 アカメガシワ		+		1
H.15 ヒサカキ		+		1
H.16 ホウキギク		+		1
H.17 オオアレチノギク		+		1
H.18 ハハコグサ		+		1
H.19 オニタビラコ		+		1
H.20 チクシキヌラン		+		1
H.21 ホルトノキ		+		1
H.22 ヤハズソウ			1・2	1
H.23 インチンナズナ			+	1
H.24 シナガワハギ			+	1
H.25 ダンドボロギク			+	1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。
 優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
 群度→5: カベツト状に分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

e) N-1(b) 地区

(a) マント群落・ソデ群落の生育状況

マント群落・ソデ群落形成地における植生調査結果を表 6.1.3-22 に、調査地の状況を図 6.1.3-25 に示した。

北側及び西側は高木層、亜高木層、低木層、草本層の4階層に、南側は亜高木層、低木層、草本層の3階層に、東側は低木層、草本層の2階層にそれぞれ分化していた。

出現種数 23~38 種の生育を確認した。

高木層は、高さ 8.0m、植被率 5~25%、出現種は 1~3 種であった。

亜高木層は、高さ 4.0~5.0m、植被率 10~15%、出現種は 1~3 種であった。

低木層は、高さ 2.0~3.0m、植被率 35~70%、出現種は 2~5 種であった。

草本層は、高さ 0.5~1.5m、植被率 15~40%、出現種は 22~36 種であった。

N-1(b) 地区については、低木層及び草本層の植被率が増加し、マント群落・ソデ群落が概ね形成されていた。

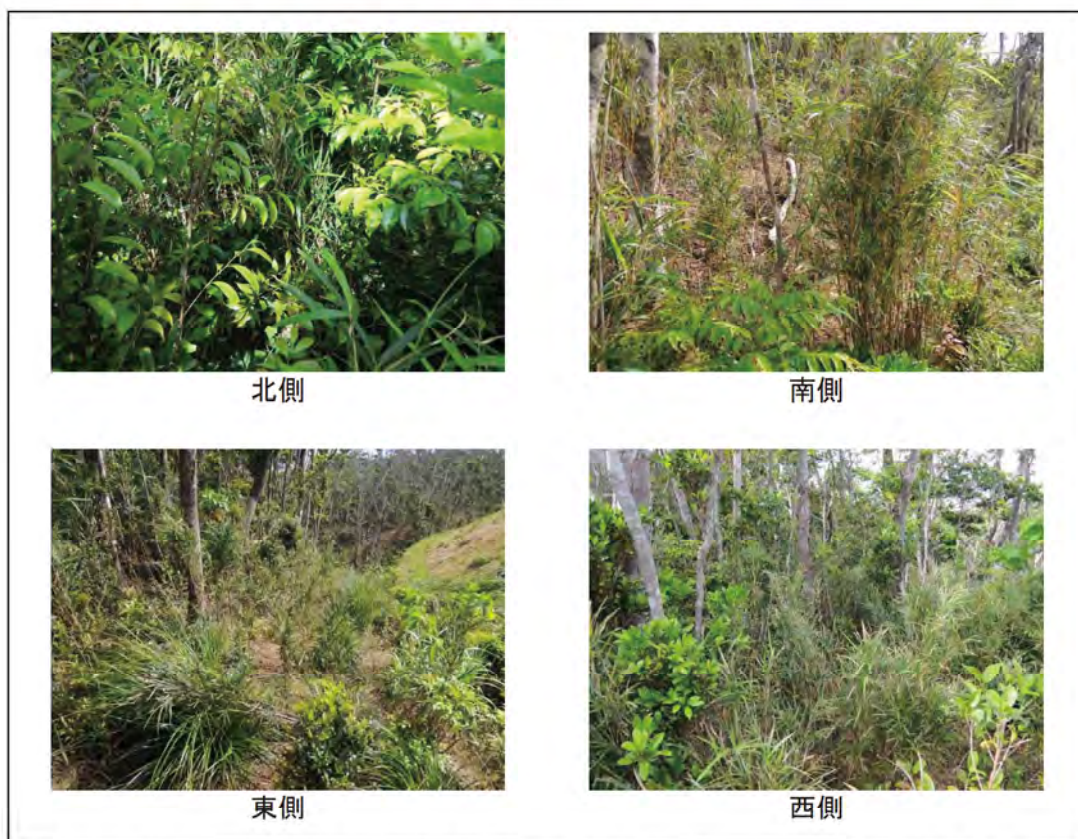


図 6.1.3-25 マント群落・ソデ群落の調査地状況(N-1(b)地区) 令和2年度春季

表 6.1.3-22(1) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(b)地区)

N-1(b)地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側	南側	東側	西側	-
	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度	
	春季	春季	春季	春季	
傾斜の向き	NW	N	-	N	
傾斜角度 (°)	40	15	-	5	
調査区面積 (m ²)	2×4	3×1.5	1.5×3.5	2×4	
高木層(T1)の高さ (m)	8.0	-	-	8.0	
高木層(T1)の植被率 (%)	25	-	-	5	
高木層(T1)の出現数 (種)	3	-	-	1	
亜高木層(T2)の高さ (m)	5.0	4.0	-	5.0	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	10	10	-	15	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	1	1	-	3	
低木層(S)の高さ (m)	3.0	2.0	2.5	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	70	35	35	50	
低木層(S)の出現数 (種)	5	2	3	3	
草本層(H)の高さ (m)	1.5	0.5	0.7	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)	40	15	30	35	
草本層(H)の出現数 (種)	31	22	24	36	出現回数
出現種数 (種)	32	23	25	38	
高木層(T1)					
T1.1 ヒメズリハ	1・1			1・1	2
T1.2 スダジイ(イタジイ)	1・1				1
T1.3 モッコク	1・1				1
亜高木層(T2)					
T2.1 イスノキ	1・1			1・2	2
T2.2 シロミミズ		1・1			1
T2.3 タイミンタチバナ				1・2	1
T2.4 シラタマカズラ				+	1
低木層(S)					
S.1 リュウキュウテク (移植)	2・3	2・2	3・3	3・4	4
S.2 リュウキュウテク	3・3	2・3		2・2	3
S.3 スダジイ(イタジイ)	1・1	1・1		+	3
S.4 イスノキ	1・1		1・2		2
S.5 フカノキ	1・1				1
S.6 アカメガシワ	+				1
S.7 カクレミノ			+		1
S.8 ギョクシンカ				+	1
草本層(H)					
H.1 ササクサ	2・2	+	+・2	2・2	4
H.2 スダジイ(イタジイ)	1・2	+	+	1・2	4
H.3 アデク	1・1	+	+	+	4
H.4 リュウキュウテク	+・2	1・2	+	+・2	4
H.5 シロノセンダングサ	+・2	+	+	+・2	4
H.6 タイミンタチバナ	+	+・2	1・2	+	4
H.7 クロガヤ	+	+	1・2	+	4
H.8 シラタマカズラ	+	+	+・2	+	4

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
群度→5: かべつ状に分布、4: かべつに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

表 6.1.3-22(2) マント群落・ソデ群落の植生調査結果(N-1(b)地区)

N-1(b)地区 マント群落・ソデ群落形成地	北側	南側	東側	西側	-
	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度	
	春季	春季	春季	春季	
傾斜の向き	NW	N	-	N	
傾斜角度 (°)	40	15	-	5	
調査区面積 (m ²)	2×4	3×1.5	1.5×3.5	2×4	
高木層(T1)の高さ (m)	8.0	-	-	8.0	
高木層(T1)の植被率 (%)	25	-	-	5	
高木層(T1)の出現数 (種)	3	-	-	1	
亜高木層(T2)の高さ (m)	5.0	4.0	-	5.0	
亜高木層(T2)の植被率 (%)	10	10	-	15	
亜高木層(T2)の出現数 (種)	1	1	-	3	
低木層(S)の高さ (m)	3.0	2.0	2.5	2.0	
低木層(S)の植被率 (%)	70	35	35	50	
低木層(S)の出現数 (種)	5	2	3	3	
草本層(H)の高さ (m)	1.5	0.5	0.7	1.0	
草本層(H)の植被率 (%)	40	15	30	35	
草本層(H)の出現数 (種)	31	22	24	36	出現回数
出現種数 (種)	32	23	25	38	
草本層(H)					
H.9 シンエダウチホンゲウシダ	+	+	+	+	4
H.10 ヤマヒハツ	+	+	+	+	4
H.11 オキナワサルトリイバラ	+	+	+	+	4
H.12 イジュ	1・2		+	+	3
H.13 コバンモチ	++2	+		+	3
H.14 ホラシノブ	+	+		++2	3
H.15 リュウキュウモチ	+	+		+	3
H.16 ハナガサノキ	+	+		+	3
H.17 イヌマキ	+		++2	+	3
H.18 イスノキ	+		+	+	3
H.19 ササバサンキライ	+		+	+	3
H.20 ヒサカキ		+	+	+	3
H.21 ツゲモチ	+		+		2
H.22 ムッチャガラ	+		+		2
H.23 アカメガシフ	+			1・2	2
H.24 タブノキ	+			+	2
H.25 インドシャリンバイ	+			+	2
H.26 ハゼノキ	+			+	2
H.27 アオバナハイノキ(ソウザンハイノキ)	+			+	2
H.28 ヤハズソウ		+	+		2
H.29 カクレミノ		+		+	2
H.30 オニタビラコ		+		+	2
H.31 コバナヒメハギ			+	++2	2
H.32 シバヤブニツケイ			+	+	2
H.33 ヤマグワ	++2				1
H.34 リュウキュウテク (移植)	++2				1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
群度→5: カベツトに分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

(b) 無障害物帯形成地の植生

無障害物帯の調査位置は、マント群落・ソデ群落形成地と同様に北側、南側、東側、西側の4ヶ所を代表として実施し、植生調査結果を表 6.1.3-23 に、調査地点の調査地状況を図 6.1.3-26 に示した。

全4箇所において草本層の1階層であった。

出現種数は4~14種であった。

北側は、高さ1.5m、植被率45%、出現種14種で、草本類のシロノセンダングサが高い被度を示した。

南側は、高さ0.4m、植被率100%、出現種7種で、草本類のシバが優占するほか、シロノセンダングサ、ヤハズソウも高い被度を示した。

東側は、高さ0.5m、植被率100%、出現種4種で、草本類のオオアブラガヤが優占していた。

西側は、高さ0.7m、植被率90%、出現種4種で、草本類のシロノセンダングサが優占するほか、オオアブラガヤも高い被度を示した。

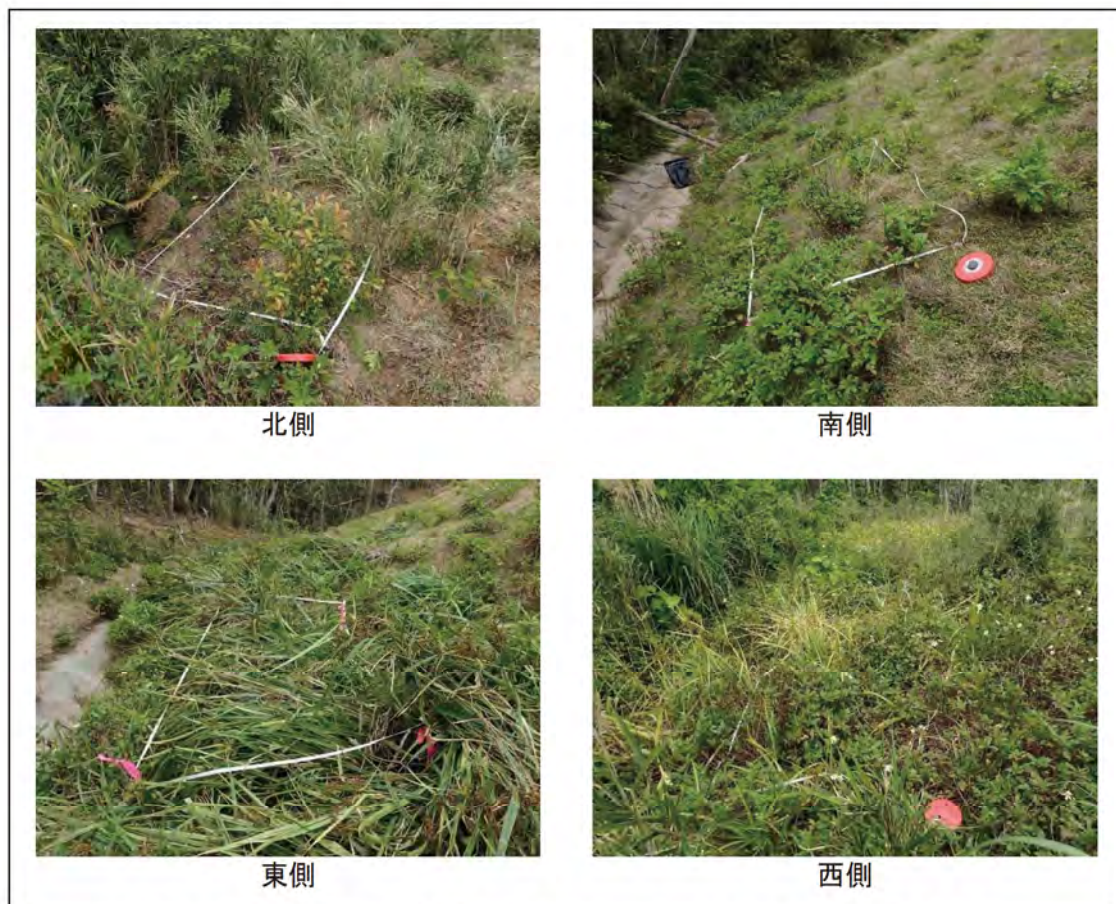


図 6.1.3-26 無障害物帯の調査地状況(N-1(b)地区) 令和2年度春季

表 6.1.3-23 無障害物帯形成地の植生調査結果 (N-1 (b) 地区)

N-1(b)地区 無障害物帯	北側	南側	東側	西側	出現回数
	R2年度	R2年度	R2年度	R2年度	
	春季	春季	春季	春季	
傾斜の向き	N	S	-	-	
傾斜角度 (°)	5	45	-	-	
調査区面積 (m ²)	2×1	2×1	2×1	2×1	
草本層(H)の高さ (m)	1.5	0.4	0.5	0.7	
草本層(H)の植被率 (%)	45	100	100	90	
出現種数 (種)	14	7	4	4	
草本層(H)					
H.1 シロノセンダングサ	2・3	2・2	1・1	4・4	4
H.2 シバ	1・1	5・5		1・2	3
H.3 ホウキギク	+	+			2
H.4 カタバミ	+		+		2
H.5 オニタビラコ	+		+		2
H.6 オオアブラガヤ			5・5	3・4	2
H.7 リュウキュウチク	1・2				1
H.8 ホシダ	1・1				1
H.9 ヒサカキ	1・1				1
H.10 ホラシノブ	+				1
H.11 インチンナスナ	+				1
H.12 イスノキ	+				1
H.13 アカメガシワ	+				1
H.14 ツゲモチ	+				1
H.15 キバナニワゼキショウ	+				1
H.16 ヤハズソウ		2・3			1
H.17 コバナヒメハギ		+			1
H.18 ウスベニニガナ		+			1
H.19 チクシキヌラン		+			1
H.20 ベニバナボロギク			+		1
H.21 ススキ				+	1
H.22 ハマサルトリイバラ				+	1

注) 表中の数値は、優占度・群度の階級であり、例えば「1・2」の場合、「1」が優占度、「2」が群度となる。

優占度→5: 被度が75~100%、4: 被度が50~75%、3: 被度が25~50%、2: 被度が10~25%、1: 被度が10%未満、+: 被度が1%以下
群度→5: カベツト状に分布、4: カベツトに穴が開いた状態、3: 大きな班を形成あるいはまだら状、2: 班状に分布、1: 小群状あるいは単独に分布

4) 工事による副次的影響を復元した箇所における植生状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.1.3-24 に示した。

表 6.1.3-24 調査期間一覧

地点/季節	春季	夏季
G 直近の作業ヤード	令和 2 年 5 月 28 日	令和 2 年 9 月 26 日

(2) 調査方法

工事による副次的影響を復元した箇所における植生の回復状況について、写真撮影による記録を行った。

(3) 調査地点

調査地点は図 6.1.3-27 に示した。

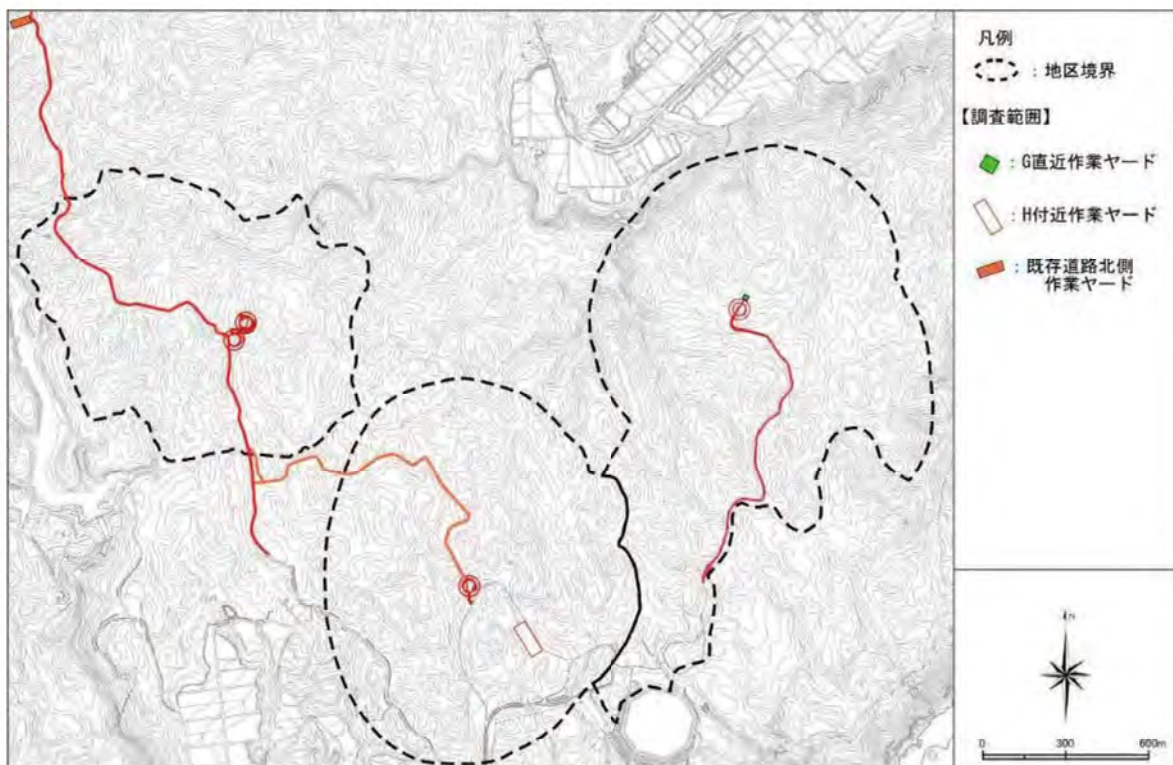


図 6.1.3-27 工事による副次的影響の復元箇所調査地点(作業ヤード)

(4) 調査結果

a) G直近の作業ヤード

復元箇所は、土壌流出防止対策のため、チップ材によるマルチングが行われていた。しかし、植生の回復が進まないことから、令和2年1月に近隣で行われている別事業の工事から発生した残土を投入、敷き均しを行い、埋土種子による植生の回復を促した。さらに令和2年6月、8月、9月に周辺地から採取したクロガヤ、チガヤ、ススキを植栽した。

植栽種は、一部は活着に至らなかったものの、活着した株からは新芽、埋土種子からは実生も確認されるなど、令和2年9月時点において、高さ0.7m程度の草本が生育し、植生の回復が進んでいた。

復元箇所の調査地状況を図 6.1.3-28 に示した。



令和2年5月28日



令和2年9月26日

図 6.1.3-28 工事による副次的影響の復元箇所の状況(G直近の作業ヤード) 令和2年度

6.1.4 動物

1) 周辺林内の乾燥化による貴重な動物種の生息状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.1.4-1 に示した。

表 6.1.4-1 調査期間一覧（令和2年度）

地区	春季
G地区	令和2年5月11日～13日、15日、 20日～22日
H地区	令和2年4月30日 5月14日、27日～29日
N-1地区	令和2年5月13日、19日～21日、 27日～29日

(2) 調査方法

調査対象である各分類群とその調査手法を表 6.1.4-2 に示した。

表 6.1.4-2 調査対象及び調査手法の一覧

調査対象	調査手法	調査手法の詳細
哺乳類	目撃法・鳴き声による任意観察法 フィールドサイン法 バットディテクター ^{注)}	調査地区内を踏査し、個体数、痕跡、巣穴、鳴き声などにより、生息状況の把握に努めた。 夜間踏査時には、飛翔する小型コウモリ類を確認するためにバットディテクターを用いた。 調査中に樹洞を確認した場合は、樹洞内部で休息する哺乳類や樹洞性コウモリ類の確認に努めた。
鳥類	ラインセンサス法 ナイトセンサス法 コールバック法	ラインセンサス法は、鳥類の活動が活発になる早朝に、設定したルートを徒歩で移動しながら、片側 25m(両側 50m)以内に出現する鳥類の種類と個体数を記録した。識別には 8～10 倍率の双眼鏡を用いた。 ナイトセンサス法は、フクロウ等の夜行性の鳥類について、日没後に設定したルート上を徒歩で移動しながら、懐中電灯等を併用し、目撃または鳴き声により確認し、種数と個体数を記録した。また、種によっては鳴き声を流して鳴き返しを確認するコールバック法を行った。
爬虫類 両生類	目撃法 捕獲法(タモ網等) 鳴き声による任意観察法(両生類)	日中及び夜間に調査区域内を踏査し、目撃、鳴き声などにより把握に努めた。踏査中は、活動中の個体のみでなく、倒木や岩下の個体の確認、休息中の個体の確認にも努めた。また、踏査中に樹洞を確認した場合は、内部を懐中電灯で照らすなどして、内部の確認にも努めた。
昆虫類	目撃法 任意採集法(見つけ取り法)	調査地区内を踏査し、飛翔個体等の目撃確認(目撃法)、石下や倒木中に潜む個体の確認(見つけ取り法)により把握を行った。
クモ類	任意採集法 (見つけ取り法)	調査地区内を任意で踏査し、樹上や地表面等に潜む個体の探索(見つけ取り法)により把握を行った。
陸産貝類	任意採集法 (見つけ取り法)	調査地区内を任意で踏査し、樹上、葉上、地上等に生息する陸産貝類を目視により確認した。

注) 小型コウモリ類が発生する超音波を可聴音に変換して確認する機器。

(3) 調査地点

調査範囲は図 6.1.4-1 に示す3地区で実施した。

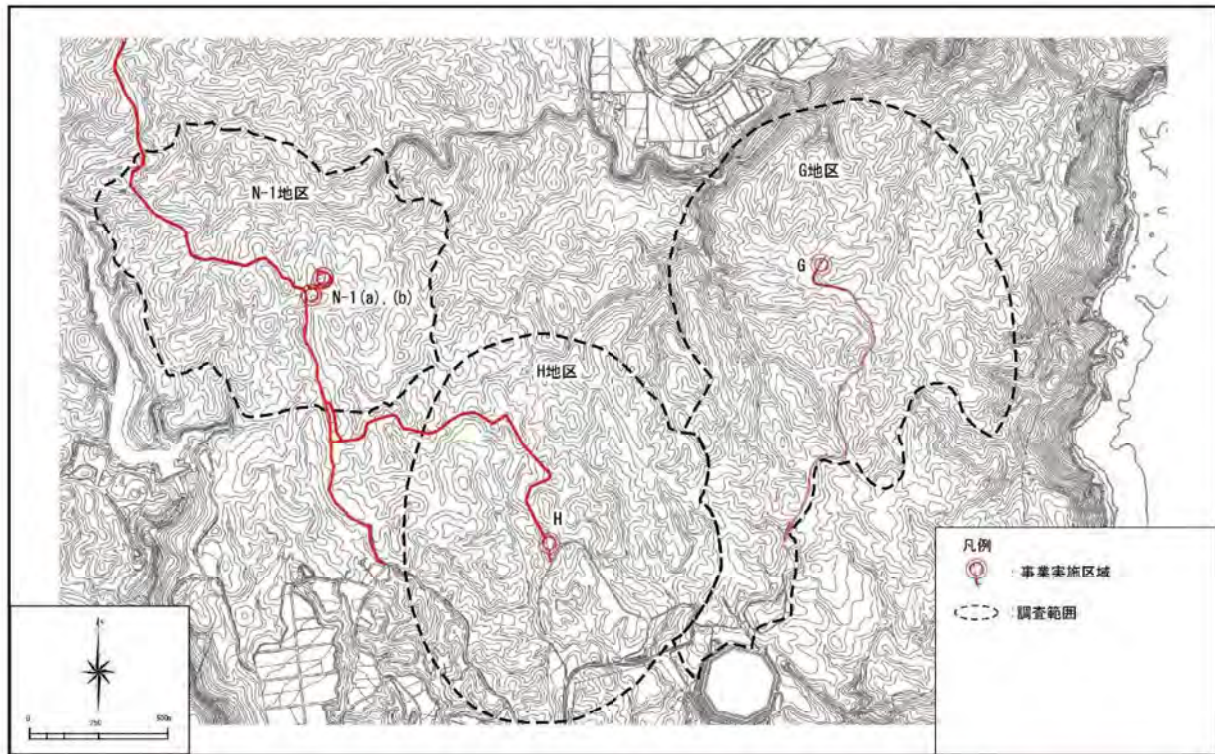


図 6.1.4-1 周辺林内乾燥化による貴重な動物種の生息状況調査範囲

(4) 調査結果

a) G 地区

確認した貴重な動物種の確認一覧を表 6.1.4-3 に、確認位置を図 6.1.4-2 に示した。

G 地区で確認した貴重な動物種は、哺乳類が [] や []
[] など 3 種、鳥類は [] や [] など 7 種、爬虫類は []
[] や [] など 4 種、両生類は [] や []
[] など 7 種、昆虫類は [] や [] など 6
種、クモ類は [] 及び [] の 2 種、陸産貝類は []
[] や [] など 14 種が確認され、全分類群では 20 目 32 科 43 種となっ
た。

表 6.1.4-3 貴重な動物種の確認状況 (G 地区)

No.	分類群	目名	科名	種または亜種名	学名	確認状況 (G地区)	指定状況 ^{注2)}				
						令和2年度 春季	天然 記念物	種の 保存法	環境省	沖縄県	
1						2					NT
2						掘り返し23 足跡2 糞2					VU
3						食痕3	国天	国内	EN		CR
4						18	国天	国内	CR		CR
5						8					NT
6						10					NT
7						巣跡1 21 幼鳥3 営巣1 掘りかけ1 巣跡13 採餌痕43	特天	国内	CR		CR
8						14 幼鳥2					NT
9						49 幼鳥3 巣跡2	国天	国内	EN		EN
10						5					EN
11						23	国天		VU		EN
12						1	県天	国内	VU		VU
13						2 幼体1			VU		VU
14						1			VU		VU
15						7 幼生45 卵30	県天	国内	VU		VU
16						318 幼生42			NT		NT
17						1					NT
18						4			NT		VU
19						33 幼体1			VU		EN
20						10 幼体3 幼生46	県天	国内	EN		EN
21						5 幼体2 卵塊1	県天	国内	EN		EN
22						1			NT		
23						11			NT		NT
24						10			NT		
25						1			NT		
26						1			NT		
27						5			NT		
28						巢穴189			VU		VU
29						1					NT
30						4					注1)
31						4			VU		NT
32						78			VU		
33						140					VU
34						3			CR+EN		CR+EN
35						15			NT		
36						6			NT		NT
37						19					注1)
38						8			NT		NT
39						1			VU		VU
40						6			VU		VU
41						24			VU		
42						9			VU		CR+EN
43						4					NT
-	-	20目	32科		43種	43種	9種	8種	31種		35種

注1) [] の一種については、野外で同定困難な複数種を含む可能性があることから、カテゴリ指定状況を示せなかつた。

注2) 貴重種指定状況のカテゴリを以下に示す。

* 環境省：「環境省レッドリスト2020」(2020) 環境省

* 沖縄県：「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-動物編-」(2017年 沖縄県)

I A (CR) → 絶滅危惧 I A 類 (絶滅の危機に瀕している種-ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)

I B (EN) → 絶滅危惧 I B 類 (絶滅の危機に瀕している種-I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)

II (VU) → 絶滅危惧 II 類 (絶滅の危険が増大している種-現在の状態をもたらし続けた圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの)

準 (NT) → 準絶滅危惧 (存続基盤が脆弱な種-現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの)

地域 (LP) → 地域個体群 (地域的に孤立しており、地域レベルでの絶滅のおそれが高い個体群)

* 種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律75号)

国内 → 国内希少野生動植物種 (本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種)

* 天然記念物：「文化財保護法」(昭和25年法律214号)

特天 → 特別天然記念物 国天 → 国指定天然記念物 県天 → 県指定天然記念物

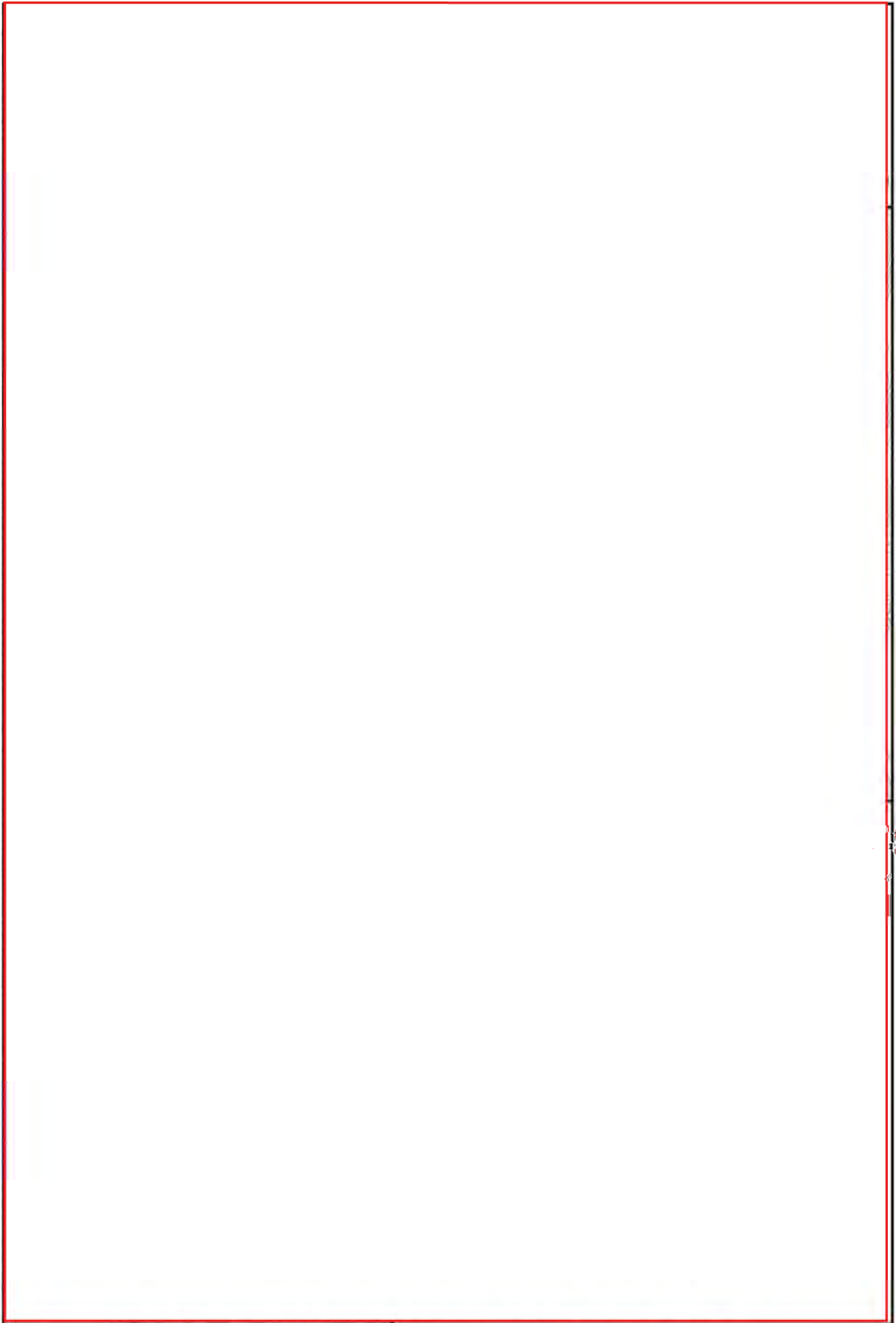


図 6.1.4-2(1) 貴重な動物種の確認位置(G地区：哺乳類・クモ類)



図 6.1.4-2(2) 貴重な動物種の確認位置(G地区：鳥類)

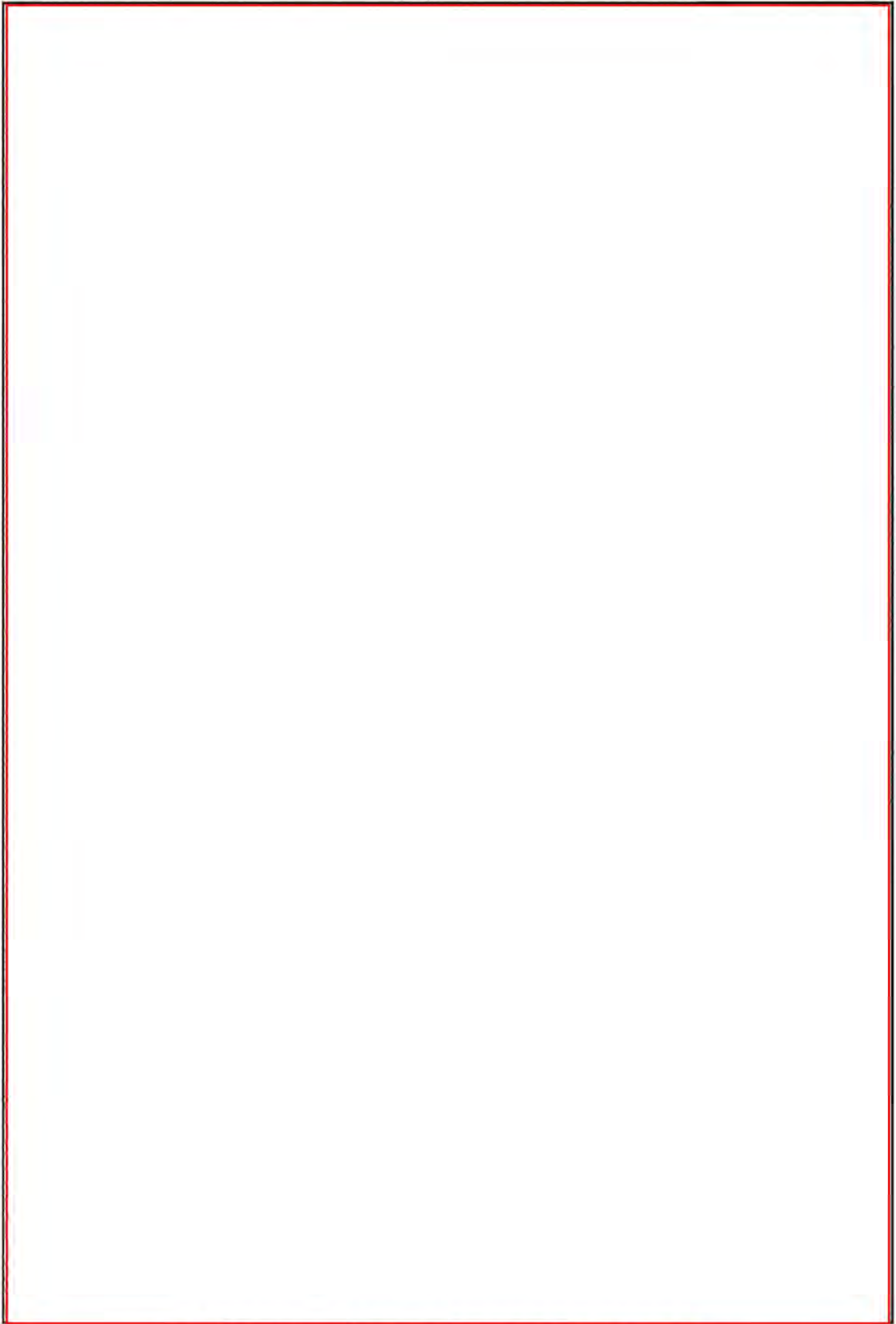


図 6.1.4-2(3) 貴重な動物種の確認位置(G 地区：爬虫類)



図 6.1.4-2(4) 貴重な動物種の確認位置(G地区：両生類)

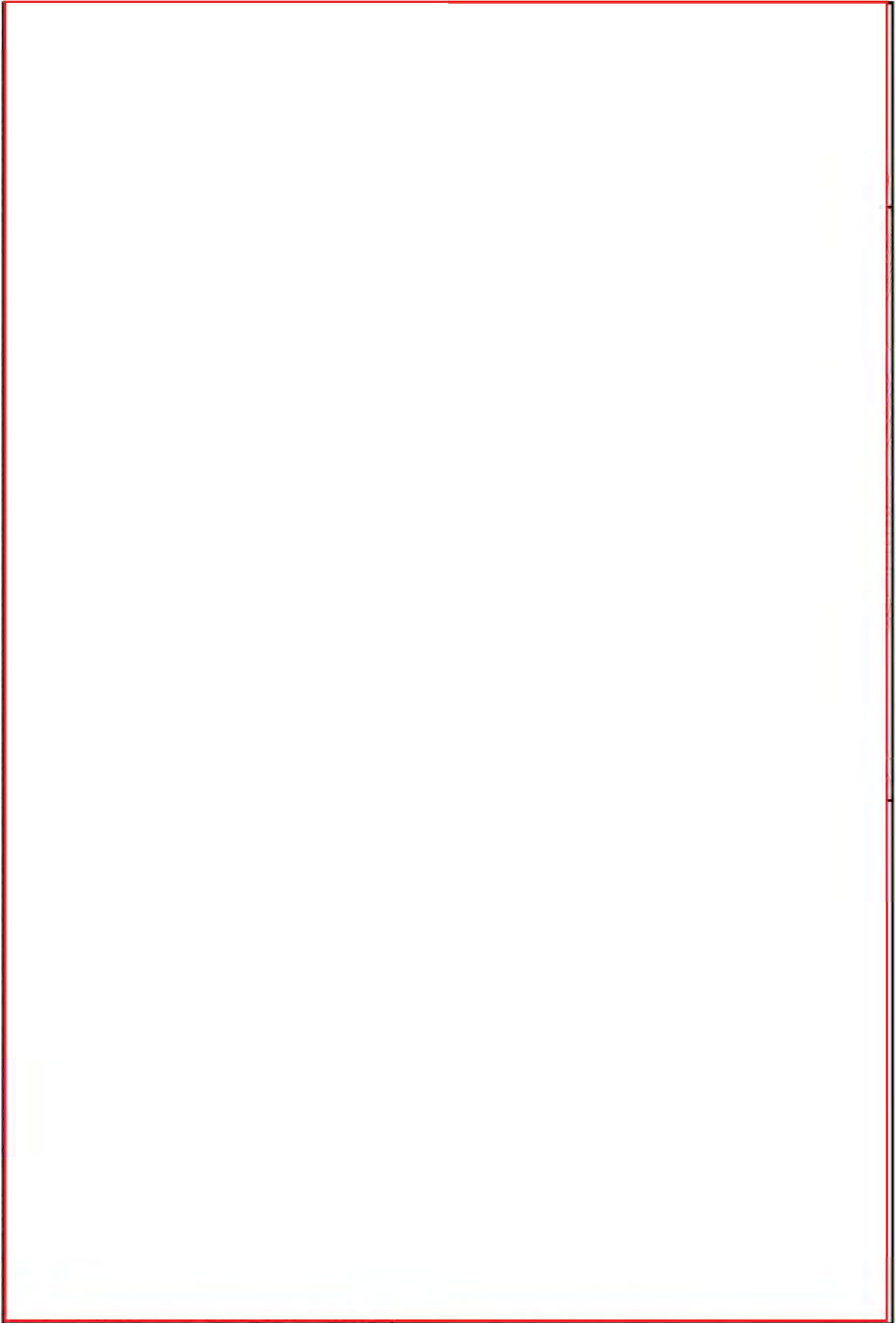


図 6.1.4-2(5) 貴重な動物種の確認位置(G地区：昆虫類)



図 6.1.4-2(6) 貴重な動物種の確認位置 (G 地区：陸産貝類)